

# 1. 特定本邦航空運送事業者（※）に関する航空輸送サービスに係る情報公開（令和3年10月～令和3年12月）のポイント

## ※特定本邦事業者

- 日本航空: JAL
- 全日本空輸: ANA
- 日本トランസ航空: JTA
- スカイマーク: SKY
- AIRDO: ADO
- ソラシドエア: SNJ
- スター・フライヤー: SFJ
- Peach Aviation: APJ
- ジェットスター・ジャパン: JJP
- スプリング・ジャパン: SJ0
- エアアジア・ジャパン: WAJ

※春秋航空は令和3年11月をもってスプリング・ジャパンに社名を変更。

※エアアジア・ジャパンは令和2年9月をもって運航を終了。

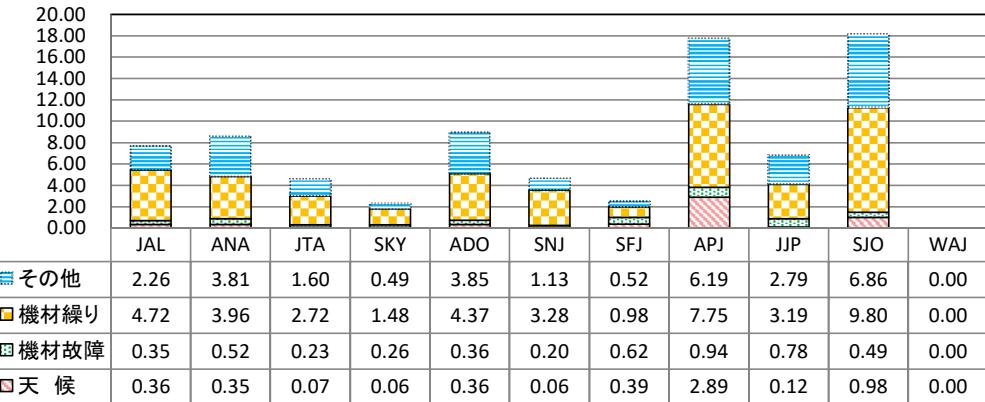
## 1. 輸送サービスの比較等に関する情報

### （1）遅延率（令和3年10月～令和3年12月）

| 当期実績  | 前年度同期実績 | 前年度同期との比較  |
|-------|---------|------------|
| 7.95% | 3.51%   | 4.44ポイント増加 |

※「遅延便」とは、出発予定時刻より15分を超えて出発した便をいう。

### 遅延率（令和3年10月～12月）



※対象となっている路線が各航空会社によって異なっており、路線毎・季節毎に欠航・遅延の特性が異なることから、単純な比較には適さない。(夏期は沖縄路線等で台風の影響を受けやすく、冬季は北国等で積雪の影響を受けやすいなど。)

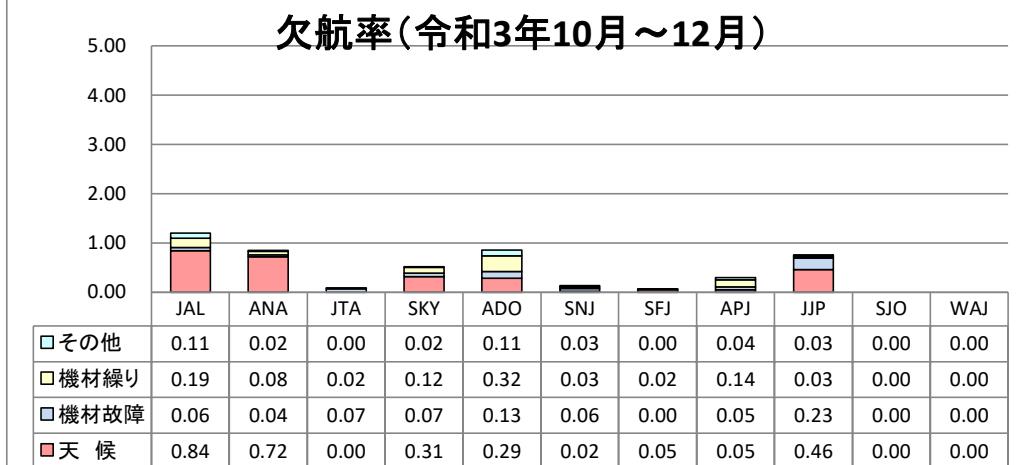
※複数の要因がある場合、もっとも影響の大きい事由に含む。

※機材繰りとは、前便が何らかの理由で遅延運航になり引き続く次便が遅延運航となる場合をいう。

### （2）欠航率（令和3年10月～令和3年12月）

| 当期実績  | 前年度同期実績 | 前年度同期との比較  |
|-------|---------|------------|
| 0.84% | 1.06%   | 0.22ポイント減少 |

### 欠航率（令和3年10月～12月）



※対象となっている路線が各航空会社によって異なっており、路線毎・季節毎に欠航・遅延の特性が異なることから、単純な比較には適さない。(夏期は沖縄路線等で台風の影響を受けやすく、冬季は北国等で積雪の影響を受けやすいなど。)

※複数の要因がある場合、もっとも影響の大きい事由に含む。

※機材繰りとは、前便が何らかの理由で遅延運航・欠航になり引き続く次便が欠航となる場合をいう。

## 2. 運賃関連情報

### (1) 輸送実績（令和3年10月～令和3年12月）

| 項目               | 当期実績        | 前年度同期実績       | 前年度同期との比較 |
|------------------|-------------|---------------|-----------|
| 平均搭乗区間距離         | 942km       | 950km         | 0.82%減    |
| 輸送人員             | 1649万7072人  | 1328万8776人    | 24.14%増   |
| 輸送人キロ            | 155億3900百万円 | 126億2003万4千Km | 23.13%増   |
| 旅客収入             | 2175億9百万円   | 1666億4百万円     | 30.55%増   |
| 輸送人員あたり<br>旅客収入  | 13.2千円      | 12.5千円        | 5.16%増    |
| 輸送人キロあたり<br>旅客収入 | 14.0円       | 13.2円         | 6.03%増    |

### (2) 路線別データ（令和3年10月～令和3年12月）

#### ①旅客数

上位5路線は次のとおり。

|           | 当期実績       | 前年度同期実績      |
|-----------|------------|--------------|
| 1位 東京＝福岡  | 159万4111人  | (122万8996人)  |
| 2位 東京＝札幌  | 143万4163人  | (107万5207人)  |
| 3位 東京＝大阪  | 95万5084人   | (82万4738人)   |
| 4位 東京＝那覇  | 91万5173人   | (89万4535人)   |
| 5位 東京＝鹿児島 | 38万8525人   | (28万3400人)   |
| 全 路 線     | 1616万6657人 | (1296万4921人) |

#### ②利用率

上位5路線は次のとおり。

下位5路線は次のとおり。

|           |               |          |               |
|-----------|---------------|----------|---------------|
| 1位 成田＝福岡  | 83.8% (72.6%) | 1位 丘珠＝奥尻 | 23.4% (—)     |
| 2位 丘珠＝函館  | 82.1% (59.5%) | 2位 大阪＝石垣 | 26.8% (—)     |
| 3位 成田＝関空  | 82.0% (64.8%) | 3位 高松＝那覇 | 27.2% (25.0%) |
| 4位 関空＝福岡  | 79.6% (59.5%) | 4位 成田＝大阪 | 28.3% (—)     |
| 5位 下地島＝成田 | 78.7% (71.8%) | 5位 宮崎＝那覇 | 31.4% (27.1%) |
| 全 路 線     | 61.1% (55.5%) | 全 路 線    | 61.1% (55.5%) |

## 3. フレックストラベラー制度（※）に関する情報

令和3年10月～12月における、フレックストラベラー制度を有する航空会社の全輸送人員に対する不足座席数の割合（1万人あたり）が高かった特定本邦上位3社は次のとおり。

（※）オーバーセールス（提供座席数を上回る予約客を受け付けること）の発生が判明した時点で、自主的に搭乗を取りやめる旅客を航空会社が幅広く募集する。

|          | 全輸送人員に対する不足座席数の割合<br>(1万人あたり) |       |
|----------|-------------------------------|-------|
|          | 当期実績                          | 前期実績  |
| ① 全日本空輸  | 2.49人                         | 0.04人 |
| ② AIRDO  | 0.49人                         | 0.00人 |
| ③ ソラシドエア | 0.28人                         | 0.00人 |

※今回の公開項目の詳細、及び過去の公開資料につきましては、国土交通省のホームページ上にてご確認頂けます。

(URL)[http://www.mlit.go.jp/koku/15\\_bf\\_000727.html](http://www.mlit.go.jp/koku/15_bf_000727.html)